

第 2 回 第 2 次平塚市都市マスタープラン検討会議 議事録

1. 日時・場所

- ・平成 19 年 2 月 1 日（木）10:00～12:20
- ・平塚市中央公民館 3 階 大会議室

2. 出席者（敬称略）

【委員】

区分	氏名	所属等	備考
学識経験者	杉本 洋文	東海大学 工学部建築学科教授	座長
	照屋 行雄	神奈川大学 経営学部国際経営学科教授	副座長
	岡村 敏之	横浜国立大学 大学院工学研究室助教授	
各種団体推薦者	三浦 清孝	平塚市自治会連絡協議会	
	田中 宏一	平塚商工会議所（商業）	欠席
	石田 庸夫	平塚商工会議所（工業）	
	菊地 繁行	湘南農業協同組合	
	小早川 唯因	神奈川県バス協会	
	上村 文子	女性防災クラブ平塚パワーズ	
	田代 勝俊	平塚青年会議所	欠席
	花本 由紀	平塚市地域教育力ネットワーク協議会	
公募市民委員	川口 聖子		
	黒部 光司		
	真道 陽一		
関係行政機関	木村 博	神奈川県平塚土木事務所所長	

その他、傍聴者 2 名

【事務局】

氏名	所属等	備考
渡辺 貞雄	都市政策部長	
・ 健夫	都市づくり・景観担当部長	
久永 逸雄	都市政策課長	
小山田 良弘	都市政策課都市計画担当課長代理	
石田 晃一	都市政策課都市政策担当課長代理	
今井 宏明	都市政策課都市景観推進担当課長代理	
市川 一雄	都市政策課湘南丘陵担当課長代理	
武井 敬	都市政策課都市計画担当主査	
五島 裕文	都市政策課都市計画担当主査	
平田 勲	都市政策課都市計画担当主査	
中村 正樹	都市政策課都市計画担当主事	
安倍 翔太	都市政策課都市計画担当主事	

作業協力班

氏名	所属等	備考
高尾 利文	株式会社アルメック 第二計画部長	
坂井 雅子	株式会社アルメック 第二計画部部長代理	
倉岡 明子	株式会社アルメック 第一計画部主任研究員	
塚越 広和	株式会社アルメック 第二計画部インターン	

3. 議事

【議事次第】(1)開会 (2)議題 (3)その他

【(3)議題の内訳】

- (1)市民意向調査の結果
- (2)現在の都市マスタープランの達成状況と課題
- (3)課題の整理

4. 配付資料

- 資料 - 1 市民意向調査結果
- 資料 - 2 平塚市都市マスタープラン(現行都市マス)の基本構成と、同プランにおける達成状況と課題
- 資料 - 3 (その1)都市づくりの課題の整理
- 資料 3 (その2)地域別課題の整理

5. 議事概要

(1)開会

事務局 : 皆さん、おはようございます。都市政策部長の渡辺でございます。

本日は、大変お忙しい中、第2回都市マスタープラン検討会議に御出席いただきまして誠にありがとうございます。

昨年11月28日に第1回検討会議を開催いたしまして、2ヶ月が経ちましたが、その間、市民意向調査を実施いたしました。また、現在の都市マスタープランの達成状況や課題について、庁内ワーキングチームを開催し、検討してまいりました。本日は、アンケート結果をご報告申し上げますので、それらを参考に市内各地域の現況や課題についてご議論いただきたいと思います。

なお、本日のこの会議は、平塚市情報公開条例第31条の規定に基づき、この会議を公開し、会議録につきましても平塚市のホームページで公表をいたしますので、ご承知願います。

それでは、第2次平塚市都市マスタープラン検討会議設置要綱第5条第3項の規定に従いまして、座長に議長をお願いし、議事の進行をお願いしたいと存じます。それでは、「杉本座長」宜しくお願いいたします。

(2)議事

1)市民意向調査の結果(資料-1)

(事務局より資料説明)

座長 : 質問やわからない点、ご意見などを頂きたい。

委員 : 23~26頁の平塚駅周辺の街頭インタビューについて、北口と南口で調査したとあるが、西口は調査しなかったのか。

事務局 : 今回は調査していない。

座長 : 市民活動団体で回答いただいた団体が、どういう活動をしているのか分かるのか。環境など、分野別に分かるか。

事務局 : 今回の資料には掲載していないが、主にまちづくり関係の団体から選ばせていただ

- いており、活動内容については把握している。
- 事務局 : 活動内容を調べたうえで、各分野から抽出してアンケートを配布した。
- 座長 : 主にまちづくり団体が多いということだが、環境や教育等の分野には配布していないのか。
- 事務局 : 各分野へ配布し、少しずつ回答をいただいている。38 頁の問 1 (2) で団体名と活動内容について詳しくうかがっているので、別途、報告させていただきたい。
- 委員 : 市民アンケートは「地区毎に人口比に応じて」回答いただいたと書いてあるが、人口分布が地域的にどうなっているのか、わかる資料はあるのか。人口分布とアンケートの割合はどうなっているのか。
- 事務局 : 前回の第 1 回検討会議で説明したように、分析のうえで最も小さいエリアである 17 地区ごとに意向をとる必要があり、統計上の信頼性を得るため、各地区で最低 100 票を回収できるように配布している。
- 事務局 : 回収状況を掲載しておらず申し訳ない。追って、お知らせする。
- 座長 : 各地区で 100 票は超えているのか。
- 事務局 : 超えている。人口が多い、少ないよりも回収数が 100 を超えるように配布した。

2) 現在の都市マスタープランの達成状況と課題 (資料 - 2)

(事務局より資料説明)

- 座長 : ご質問、ご意見はいかがでしょうか。
- 委員 : 9 頁「 4 将来人口」について、平成 10 年度の推計では 29 万人だったのが、次期平塚市総合計画 (案) での推計値では約 26.5 万人と少なくなっている。その差はどうしてできたのか。
- 事務局 : 平塚市だけではなく、全国的に少子高齢化が進んでいる。平成 8 年または平成 9 年で 29 万人と推計した当時は、出生率が 1.36 ~ 1.37 だったのが、現在は 1.2 台まで落ちている。よって、少子化が当時よりも進んでいることがひとつの理由であると考えられる。また、住宅地については、例えば真田、北金目、あるいは真田地区の土地区画整理事業、五領ヶ台地区の土地区画整理事業が進んでおり、特にめぐみが丘地区についてはかなり人口がはりついている。その他、市街化区域内についても他市からの転入者によるマンションへの居住が進んでいる。そういった意味では、住宅地が不足して転出しているという意味ではなく、あくまでも社会現象的原因により、少子高齢化が進んだ影響で当時の推計値とはだいぶ乖離してきている。
- 委員 : 昨年度末で平塚市の人口は 26 万人と言われている。今の説明によると、住宅地がいろいろとできている、また中心商店街のところも中高層の住宅になってきているという状況である。将来 26.5 万人ならば、ほぼ現在と変化しない、人口は増えないという前提になり、社会資本整備の考え方もかえていかなければならないのではないのか。
- 事務局 : 次期平塚市総合計画は「(案) 」ということで現在、議会に上程中であるが、これによるとピークが 26.5 万人であり、これは外国人の登録人口や区画整理等の開発分も見込んだ数値である。ただし、少子高齢化が想像以上のスピードで進んでおり、このような数値になっている。都市基盤への影響については、人口もひとつのパロメータ

になるが、産業も非常に大事な要素である。さまざまな産業がある中で、今後の平塚市としてどういうところに力を入れていくかにより、都市構造に大きく影響してくる。人口が増えないというのもひとつの要素であるが、それ以外に産業も大事だと感じているので、両者をバランスよく進めていきたい。

座長 : 国の予測では年間 80 万人程度が減少すると推計しており、どこが減るのかということになる。平塚の場合は、自然環境の評価が最も高く、その魅力で住んでいる人が多い。これからは人口の取合いになり、移り住んでくれる人をどうやって増やしていくかということが大切になるなかで、良い住宅地を提供できれば市外から移り住む人はでてくる。近年、次々に建設された高層マンションでは、市外からの転入が多いのか、または市内に住んでいる人、あるいは交通不便地域などの市内からの移動があるのか、それがわかるデータはあるのか。

事務局 : 中心市街地の約 100ha 全てを調査したわけではないが、紅谷町の 3 番街区と 9 番街区にある約 70m 級の高層マンション 2 棟で調査した。その結果、市内移動が 53%、市外からの転入が 32%、県外からの転入が 14%であった。市内からが半分、市外からが半分という結果である。詳しく調査したわけではないが、市内から移動してきた人についてみると、駅のすぐ近くからの人もいれば、少し離れた地域からの人もいるが、比較的、駅の近くからの移動が多いように見受けられる。

座長 : 以外と市内からの移動が多い。小田原で調べたときも、市内からの移動がほとんどで、次男の方や、高齢者が鍵ひとつで生活したいのと、病院へ通うのに市内が良いというので需要がある。周辺部にいくと環境が良いので住宅地としては魅力的だが、開発できるのかという問題があり、それとのバランスである。

都市の魅力の指標として、昼間人口が 1 を超えているかどうかである。平塚市は 1 を超えている。これに対して川崎と横浜は、都心への通勤地であることから 1 を切っている。平塚市は 2 つの大学が貢献していることもあるが、職住近接という点では、工業地帯があるため近くに職場があり、住む環境も良いということもあって 1 を超えている。先ほどの説明にもあったように、産業が非常に大事で、人口が減るなかで、生活を豊かにするために何が担っていくべきか。ひとつは工業があげられるし、今は若干弱くなっている農業も、放置されている土地をどう活用するかで、新しい産業がでてくるかもしれない。例えば、日本全体で農産物を海外へ輸出しようという声もある、その辺の農業の力をどう出していくのが課題である。地域の人々の将来像を描き出していくことが大切である。

副座長 : 4 頁の将来都市構造は、これから議論をしていかなければならないが、資料の図で概ねよいと考えている。ひと頃はツインシティ計画の拡大・整備と、平塚駅周辺との 2 つの拠点で、平塚市は発展していくことを考えていた。駅を中心とした「都市拠点」については、8 年間かけてこの状況である。「商業環境の充実」とあるが、まだ十分には充実していない。「多様な都市機能の高度な集積を図る」とあるが、特に北側については十分に整備されていないとある。交通については、7 頁に海岸から総合公園までを「シンボル軸」として位置づけており、都市拠点の開発・整備と同時に交通体系としてのシンボル軸の整備が必要である。現状としては北側、特に北の道路区間については、景観も含めて十分に美しいまちづくりを進めると書いてあるが、それがなかなか進んでいない、しかも問題が多いという評価である。駅前の整備も含めた都市

拠点の開発・整備、シンボル軸の景観を含めた整備、この2つについて、この8年間でどういう取り組みがされていて、どういう問題があって、ほとんど進んでいないのか。アンケートでも問題点としてあげられており、平塚市の20年後の新しい都市構造では、これが中心になると考えている。多くの問題が残っていると評価されているが、取り組み状況と問題点、進まない理由、都市機能の多様な集積ができていない理由等について、説明していただきたい。

事務局：主に北口のシンボル軸について、自転車の問題、商業環境等の問題などが課題としてあげられる。これまでの8年間の取り組みとしては、特に中心商店街では民間の再開発事業の促進をしてきており、先ほどの紅谷町の3番街区と9番街区は再開発事業の一環として実施してきた。市としては、見附町の体育館跡地の基本構想について議論を行い、様々な市民の方から意見をいただいて基本構想ができあがった段階であり、まだまだ時間がかかる状況である。その他の取り組みとしては、駐輪場の問題については、市民部で放置自転車対策に取り組んでいる。また、駅西口に元国鉄から取得した市有地があるので、それを活用した駐輪場の整備が実現されようとしている。南側は、県道ではあるが、「なぎさプロムナード」として比較的良好な環境ができています。都市拠点全体としては、特に駅の北口・南口・西口で、駅舎内でバリアフリー化に順次取り組んでいる状況である。シンボル軸については、このような状況で、まだ目に見えてできてきているところは少ないが、徐々に計画が実現されている。

ツインシティは県、平塚市、寒川町の協同で検討を進めている。新幹線新駅についてはまだJRから良い回答は得られていないが、両方の都市拠点が必要とのことで、現在、土地利用計画を市民とともに取り組んでいる状況である。次回の線引き見直しのなかで、市街化区域の候補地としての位置づけをしていきたい。

副座長：これから議論することで、先走って申し訳ないが、問題提起として聞いていただきたい。平塚駅は、ホームから降りてバスやタクシーを利用するために左側へ行く人が多く、あの空間をどうするのが重要である。駅に風格が必要かはこれから議論していくことだが、私は総合公園を中核にして平塚市を整備していくべきと考えている。駅周辺にバスが入り込まないで、バスは止まらず・待たず、普通のバス停として走行し、少し離れたところにバス待機場を整備する。それによって駅前の歩行空間を整備し、利便性や賑わい、広場が整備できるようになる。そうすると、シンボル軸が整備されて、市役所や公園まで人々が移動できるようになる。20年後のことなので、あつという間にできるものではないが、中核をつくることで、平塚市の美しさや住み良さがもっとあがっていきたくらうと考えている。

事務局：貴重なご意見をいただいた。駅周辺では様々な計画がもちあがっていたが、なかなか実現できずにいるのが現状である。西口の再開発についても、ライナーホームをもつてくることで民間主導で実施する計画であったが、後退ぎみになってしまった。平成10年に「駅周辺基本計画」を策定し、北口・南口・西口の大きな拠点として、460億円をかけて地下に駐車場と駐輪場を設置するといった壮大な計画があった。また、平成16年にまちづくり計画として、駅周辺で「まちづくり交付金」を使った事業計画をつくり、進行している。しかし、全体像がみえてきていない。平塚の顔として、どこをどう整備するべきか、駅や中心商店街の回遊性はどうか、また賑わいも創出しなければならない。駅前の機能として駅前広場があればよいのかどうか、バリアフリ

一も総合的に判断しながら、駅前大通りを使ったなかで何かできないか。あるいは、西口の部分、あるいは見附台の部分を分散化できないか。ぜひ、みなさんに南の核について議論いただき、計画にあげていただきたい。将来、新しい平塚の顔ができあがることを期待している。そういった細かい議論も、ぜひともお願いしたい。

座長 : 他に、それぞれ団体を代表しているので何かご意見はないか。

委員 : 8年間で計画は徐々に進んでいるという説明であったが、問題点はないのか。歩みを遅らせている問題は何か。

事務局 : ひとつは、財政的な問題が非常に大きい。460億円かけて数百台の駐車場を整備することが、費用対効果としてはどうかといった様々な議論があり、なかなか土台にあがってこないのが実情である。それよりも、今は何をすべきなのか、何をしたら少ないお金で高い効果が得られるのかという考え方にシフトしてきており、時間がかかっている状況である。

座長 : 交通体系を考える際、一極集中でよいのか、それとも回遊性をもたせるのかを議論しなければならない。

委員 : 出来るところからという説明があったが、都市マスタープランは20年先を見込んだものなのに、資金的なものが見つからないので出来るところからというのでは、マスタープランの考え方そのものが変わってしまうのではないか。

事務局 : 誤解を招くような発言をしてしまい、申し訳ない。平塚市で20年以上先をみた計画は他になく、この都市マスタープランが最も長期の計画である。そのなかで総合計画では3年ごとの実施計画があり、そちらで具体的に予算とのリンクを考えて計画づくりまたは実施を行っているが、まだ、そこまで結びついていかない。もちろん、市として、都市マスタープランをかかげて、それに向かって各セクションで努力しているが、庁内・市内全体との調整、バランス、優先順位を考えると、なかなか実施計画レベルまであがってこない状況である。決して諦めたりしているのではない。

副座長 : 誤解があってはならない。4頁の基本的な将来都市構造を前提として、中心になるのは都市拠点(の円)と交通のシンボル軸である。これらをもっと整備していくということである。

3) 課題の整理(資料-3(その1)、資料-3(その2))

(事務局より資料説明)

座長 : まとめるというよりは、様々な意見を出したほうが今後のためになるので、各委員から順番にご発言頂きたい。

委員 : 北の核については県と寒川町、平塚市でやっていくのでよいだろう。南の核については、昔よりは様々な機能が立地しており、立派になってきたと感じている。しかし、核として整備してどうなるのかが見えてこない。一方で、駅へのアプローチという点から、小田急線ははずしてはいけないのではないか。人や車、自転車、バスの動きを考える際に、小田急線ははずしてしまうと、路線計画や人の動きが違った考え方になってしまう。小田急線、東海道線、相模線、将来延びてくるであろう路線を見据えたなかで、検討するべきである。

- 座長 : 道路網の考え方など、ご指摘のとおり点がある。
- 委員 : 全体的にみると、自転車の利用が大きな課題である。環境、高齢者の健康、平坦な土地という利点を生かして、自転車をうまく活用した整備を進めるとよい。アンケートからも、それを望む声が多くみられる。自転車を活用したまちづくりを行えば、おもしろいのではないか。
- 座長 : 事務局でも一時は、自転車のまちづくりの資料、他都市の事例集をつくったようである。次回にでもお見せできるとよい。
- 委員 : 商業と観光を結びつきたいと考えている。平塚のイメージとして、七夕祭りは全国的に知名度が定着している。七夕の1週間だけ人が来て、後は来ないというのではもったいない。知名度を活かしたまちづくりとして、昔の人に会える、探してくれるなど、「出会い」をプロデュースする場を提供してはどうか。「出会い」をキーワードにして産業、観光、商業を結びつけるきっかけになる。
- また、競輪場を核として、自転車を単なる観光としてではなく、スポーツとして取り上げて相模川のサイクリングロード整備し、人を集めてはどうかと考えている。
- 座長 : 交流人口を増やすためには観光が重要である。自転車は話題として非常に良いと思う。ツール・ド・フランスは自転車のイベントとしては相当に人を集めているので、そういうものを作り出せばまちのイメージは非常に良くなる。
- 委員 : 市民アンケート結果から、まちの賑わいは感じるが、平塚の魅力を感じていないということが重要な点として受け止めた。計画には実際にそこで活動している方、商業・工業の実際の希望が反映されているかどうか疑問である。例えば、実際は市民の小田急線の利用が多いのに、北の核は工業の視点からしか触れられていない。工業の方だけに有益ではなく、もっと様々な方の意見を聞くべきである。まちの魅力を高め、平塚らしさを都市計画に打ち出すことが大切である。まちの魅力とは、下からの意見を吸い上げ、まちの計画に活かして実現していくことである。
- 座長 : 平塚市の景観検討委員会の「くらしの景観」調査では、街の魅力を探すために、自分達の生活の足元から発見するということで、暮らしからの景観を見直していこうとしている。委員のご指摘のとおり、生活者の視点からまちの魅力がでてくる。北の核は高速道路が近くにあるなど、ネットワークが充実しており、工場誘致よりは流通系の企業のほうが魅力を感じる場所である。小田急線の駅とのつながりは非常に重要で、生活者の視点からみるとそちらを利用している人がかなりいるので、その辺を考慮する必要がある。
- 委員 : 交通の面から言うと、駅周辺が常に渋滞しており、また、歩行者と自転車が錯綜していて危険であるため、歩行者と自転車とが独立した空間が欲しい。
- バスについて、アメリカのシアトルでは混雑箇所を避けるために、地下を利用していている。大学行きなどの遠い路線バスでは、地下を利用してノンストップで走行し、ある程度のところまでいくと地上に出るというものがある。
- 座長 : シアトルの例は、確か、地下鉄を中止してバスを入れたようだ。
- 委員 : アンケートの回収率の低さを改めて感じた。自分でもアンケートを回答したことがあり、普通に返すのが当然だと思っていたが、実際はこれほど回収率が低いものかと痛感した。

これから 20 年先の平塚を見通しての都市マスタープランであり、防災に携わって

いる者の意見として、近々くるであろう大地震を考えると、防災を考えたものをぜひ進めていきたい。

座長 : 公園整備も含めて、どこへ避難するのか防災面が遅れているように感じる。今回の都市マスタープランは重要となる。また、いろいろな犯罪が増え、普段の日常の安全も脅かされているので、その点についても考えていきたい。

委員 : 県、国、市の仕事がかちゃになっている。実際に県がやる仕事に対して、市が要望しかできないことが、非常に重要な課題に捉えられている。県がやらなければどうになってしまうのか。県がやらなければ、市で出来ることは何か、それをもっと明確にしなければならない。例えば、ツインシティが本当にできるのかといった疑問があるなかで、「緑の回廊」構想を変える原因にもなっている。出来ないものを仮定して変えてしまうのか、もっと精査していかなければならない。

座長 : もう一度、そういった視点で見直していく。

委員 : 平成 8 年ごろに現行都市マスタープランが策定されて、今回のアンケートはその 10 年後の実施となった。一方、実施計画は 3 年ごとに行われているという説明があった。この長期間で社会情勢が変わるなか、それを考慮しながら 3 年ごとの実施計画を策定するべきであり、都市マスタープランの内容を精査しながら、出来ないものについては原因等を分析し、できるものについては順次整備を進めてきているものと考えている。しかし、平塚の顔が見えてこないで、それが出せるようなものを進めてほしい。

委員 : 先ほどの小田急線へ向けた縦の線など、交通の整備が重要と思っている。別の視点として、財政上の問題があげられたが、既存のものを有効活用していくことがポイントである。例えば、港地区の自治会長をしているが、自治会の集会場を新しくしたいが、土地がない。地域の子供の家や公民館など、行政の縦割りで教育関係でしか利用できないとするのではなく、有効に利用する方法があるのではないか。ハードだけではなく、ソフトも大切にされた柔軟な考え方をすれば、もっと住みよいまちになるのではないか。また、安心安全なまちづくりとして、西口の「Be ロード」の風俗店を無くすべきである。警察は事件がないと動かないので、市長が先頭に立ってやるべきである。身の回りのことから安心安全なまちづくりをつくっていくべきである。

座長 : ある卒論で、平塚市内の高校生の居場所についてアンケートをとった。駅周辺にいろいろな施設が欲しいという声はもちろんあったが、その他に、青少年会館等が 5 時で閉館するので、学校が終わってから行こうとしても使えない。公共施設の使用時間帯を変えていくことも考えられる。これからは財政が厳しいなか、ソフトで利用の仕方をどうするか、行政だけでなく市民参加や NPO など運営を一緒にやっていくことも考えられる。

委員 : 自治会長を 21 年やっており、これまで様々な委員会に出席してきた。最も古いのは歴史軸、最も新しいのは駅周辺まちづくり委員会である。先ほど嬉しかったのは、平成 10 年の駅周辺の整備委員会の話がでてきたが、もう忘れられたのかと思っていた。その駅周辺整備計画と歴史軸とが繋がれば、立派なまちづくりができたはず。20 頁の自治会と PTA のところは記述が間違いではないか、問題になると思う。また、「アメとムチ」という言葉を使ってよいのか、よければいいのだが。

座長 : 「アメとムチ」は「選択と集中」という意味であるので、言葉を修正すること。事

務局は対応を検討すること。

委員 : 中心市街地について意見を述べる。回遊スポットがあればぜひやっていただきたいし、外から人を呼ぶこともぜひやっていただきたい。それと同時に、当たり前ではあるが、中心市街地が賑わっているかどうかは、データによると地元の人 coming かどうかに関係している。駅の近くに住んでいる人が、ちゃんと駅の近くに来てくれるかどうかである。例えば、京都では、まちなかに住んでいる人のほうが、郊外に住んでいる人よりも買物の移動距離が長い。地元が無いので郊外へわざわざ車に乗って行っている。そのようなことが平塚で起きているのであれば、大変なことだと思っている。3頁で「平塚駅周辺で急激な人口減少が予測される」とあるが、減少していくと言うままではダメで、商業地域での住環境を良くしていくべきである。商業環境だけでなく、まちなかに住むという環境も進めて頂きたい。直感的に商業地域が結構広いという感じがする。商業地域を近隣商業地域にすることは実際には無理であるが、中心に人が住みやすいという点をあわせて中心市街地活性化を進めて頂きたい。

座長 : 全国的にも中心市街地のエリアがこれでよいのかといった議論がある。小田原はこれよりももっと広い。

副座長 : 20年先を見込んだ都市マスタープランを作成するうえで、少子高齢化、長寿社会であることは間違いない情勢である。そうすると、子供、要援護者、高齢者など、ノーマライゼーションを人口に含んだ前提でまちづくりをすることが必要である。子供へのサポート、高齢者が健康で暮らしよい社会にすることを前提として、全ての政策に反映していくことが重要である。我々がその点を十分に意識して都市マスタープランを策定していくことが大事であることを、再度、ここで強調したい。

座長 : 先日参加した横浜での勉強会で、ヨーロッパではグリーンフィールドといった緑地には絶対に手をつけず、工場跡地などの未利用地を使っていく方針にかわってきている。平塚市でも粗密があり、南の核と言われているところは非常に集積し、周辺になってくると薄くなり、その背後地に行くと小田急線周辺でまた町が集積している。そういう都市構造をうまく活用していくことが必要になると思う。

それでは、時間がきたので、事務局から連絡をお願いします。

(3) その他

事務局 : 今回はアンケート結果と課題の整理について議論をした。当初は将来像までやる予定であったが、時間の都合上、そこまで至らなかった。次回、第3回検討会議では、全体構想と分野別のまちづくりの方針等について検討を進めていきたい。若干、お時間を頂いて5月頃を予定している。その間、本日発言しきれなかったご意見等ありました、どのような方法でも結構なので事務局までご連絡をいただきたい。

開催通知については、日程が決まり次第、なるべく早い時期にご案内する。

(4) 閉会

事務局 : 予定時間を大分過ぎてしまい、大変申し訳ない。次回は時間に余裕をもたせて進めていきたい。本日はどうもありがとうございました。

以上